

## 5. 日本

絶滅の危機に瀕している蝶を救うため、自然保護活動家とある農村は、環境の過剰利用と過小利用のバランスを見出すことに取り組んでいる。人間の活動の中で繁栄するように進化した種であるミヤマシジミは、人々が田舎から離れるにつれて減少していった。しかし、長野県の小さな集落である飯島では、注意深く監視された里山景観が、地域の宝として認識される種の育成に役立っている。

里山とは、水田、草地、畑などの生息地が混在するモザイク状の景観のことである。飯島では、東京大学の研究者が水田に隣接する4つの草地に蝶の保護区を作った。蝶が寄生者に感染しやすくなるため、適度な草地利用が成功の鍵である。コミュニティの参加もパズルのピースのひとつであり、町はプロジェクトに関する最新情報を定期的に発信している。これまでに科学者たちは7カ所で1,200匹のサナギを放した。5カ所では4世代後も蝶が残っている。

飯島の活動は、自然と調和した人間活動を促進する「里山イニシアティブ」の国際パートナーシップに沿ったものである。その他の統合的景観プロジェクトには、スペインとポルトガルのデヘサ森林地帯、ハワイのアプアア山地生息地などがある。

出典 Mongabay